

ジノテフラン (案)

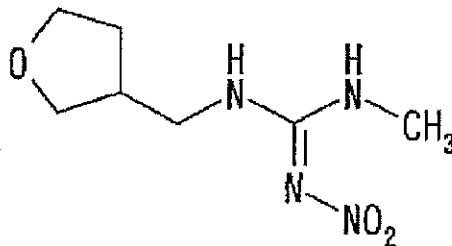
1. 品目名：ジノテフラン (dinotefuran)

2. 用途：殺虫剤

テトラヒドロフリルメチル基を有するネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。

3. 化学名：(R S) -1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン

4. 構造式及び物性



分子式	$C_7H_{14}N_4O_3$
分子量	202.21
水溶解度	40 g/L (20°C)
分配係数	$\log P_{ow} = -0.549$ (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

(1) 農薬

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

なお、作物名、使用方法のように記載しているものについては、今回農薬取締法（昭和23年法律第82号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

0.35%粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (本田期は3回以内)
	カメムシ類	3~4kg/10a				

0.5%粉剤

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)

10%液剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ	1000倍	60～ 150L/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人ヘリ 散布は合計 3回以内)
	カメムシ類 ウンカ類	300倍	25L/10a				
		8倍	0.8L/10a			無人ヘリ コプター による散 布	
		30倍	3L/10a			空中散布	

4%水和剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類	500g/10a	移植時	1回	ペースト肥料に混合し 側条施肥田 植機で施用 する	4回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計1回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人 ヘリ散布は合 計3回以内)	2回以内 (育苗箱へ の処理及び 側条施用は 合計1回以 内)

10%水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	1000倍	60～ 150L/ 10a	収穫7 日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計3回以内)	4回以内 (育苗箱への 処理は1 回以内、本 田では3回 以内)
	いもち病 カメムシ類	8倍	0.8L/ 10a	収穫7 日前 まで		無人ヘリコ プター散布		

10%水和剤(カスラブスタークルフロアブル)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	使用 回数	使用 方法	ジノテフランを 含む農薬の総 使用回数	カサマイシンを 含む農薬の総 使用回数	フサライドを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類	300倍	25L/ 10a	収穫 14日 前ま で	3回 以内	散布	4回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計3回以内)	5回以内(種 子浸漬は1回 以内、育苗箱 への処理は1 回以内)	6回以内 (穂ばらみ 期以降は4 回以内)

5%水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 カメムシ類	150 倍	25L/ 10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)	6 回以内 (穂ばらみ期以降は 4 回以内)

1%粒剤(スタークル粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネドロオイムシ カメムシ類	3kg/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)
きゅうり	トマトハモグリバエ	2g/株	育苗期	1 回	株元散布	4 回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、定植後の株元散布は 1 回以内、散布は 2 回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	生育期 但し、収穫 14 日前まで			
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植時			
	シキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2g/株				

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	育苗期		株元散布	4回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内)
			定植時		植穴 土壌混和	
うり類 (漬物用)	ミナキイロアサミウマ	1~2g/株	定植時		株元散布	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類					
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	ミナキイロアサミウマ ハモグリバエ類	2g/株				
	トマトハモグリバエ	1g/株	育苗期		株元散布	
	アブラムシ類					
なす	アブラムシ類	1g/株	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	トマトハモグリバエ	2g/株				
		1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株				
		1~2g/株	収穫前日まで		株元散布	
ハモグリバエ類	2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和		

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	トマトハモグリハエ	1~2g/株	育苗期	1回	株元散布	5回以内 (育苗期の株元散布は1回以内、定植時の灌注は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	コナジラミ類	1g/株				
	アブラムシ類					
	ハモグリバエ類	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
ピーマン	ミナキイロアサミマ	1~2g/株	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類	1g/株				
			株元散布			
キャベツ	アオムシ	2~3g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	2g/株				
	コナガ	2~3g/株				
はくさい	アオムシ	3g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類	2g/株				
	コナガ					

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a	定植時	1回	株元散布	4回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
だいこん	キスジノミハムシ	4~6kg/10a	は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)
	アブラムシ類	6kg/10a			土壌混和	3回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	6kg/10a	定植時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回内、散布は2回以内)
	アブラムシ類		は種時			
こまつな みずな	アブラムシ類 キスジノミハムシ		は種時		播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回内、散布は2回以内)
非結球あぶらな科野菜 (チンゲンサイ、こまつな、みずなを除く)						
なばな類	アブラムシ類		0.5~1g/株		定植時	植穴 土壌混和
いちご	ワタアブラムシ					

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	20g/株	育苗期	5回以内	株元散布	5回以内
くわい	アブラムシ類	3kg/10a	収穫60日前まで	3回以内	散布	3回以内
かぶ	キスジノミハムシ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の播 溝土壌混和は 1回以内、散 布は2回以内)
にんじん	マメハモグリハエ	9kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	1回
茶	クワシロカイガラムシ	12kg/10a	摘採7日前まで	2回以内	株元 土壌混和	2回以内
ししとう	アブラムシ類	1g/株	育苗期	1回	株元散布	3回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布は2 回以内)
	ミナキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時		植穴 土壌混和	
とうがらし類	ミナキイロアザミウマ	1~2g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、定植後 の株元散布は 1回以内、散 布は2回以内)
	アブラムシ類	1g/株	育苗期		株元散布	
			生育期 但し、収穫14 日前まで			
さやえんどう	ハモグリバエ類	9kg/10a	生育期 但し、収穫14 日前まで			3回以内 (株元散布は1 回以内、散布 は2回以内)

1%粒剤(スタークル粒剤) (続き)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
食用ぎく	アブラムシ類	1g/株 (但し、 10a 当たり 30kg ま で)	定植時	1 回	植穴 土壌混和	3 回以内 (定植時の土 壌混和は1回 以内、散布は2 回以内)
	マメハモグリハエ	2g/株 (但し、 10a 当たり 30kg ま で)				

2%粒剤(スタークル箱粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30x60x 3cm、 使用土壌 約 5L) 1箱当たり 50g	は種前	1 回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に混和 する。 育苗箱の 上から均 一に散布 する。	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側条 施用は合計 1 回以内、本田 での散布、空 中散布、無人 ヘリ散布は合 計 3 回以内)
			は種時覆土前 ～移植当日			
			移植 3 日前～ 移植当日			
	移植当日					
	ニカメイチュウ フタオビコヤガ					
	イネクロカメムシ					

3%粒剤(スタークル1キロH粒剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布 無人ヘリコプターによる散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	カメムシ類					

20%水溶剤 (スタークル顆粒水溶剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	2000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000倍					
ピーマン	アブラムシ類	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	ミナキイロアザミウマ						

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
トマト ミニトマト	コナジラミ類	100倍	セル成型 育苗トレイ (30x59cm・ 使用土壌約 1.5~4.0L)1 箱当り0.5L	定植時	1回	灌注	5回以内 (育苗期の株 元散布は1回 以内、定植時 の灌注は1回 以内、定植時 の土壌混和は 1回以内、散 布は2回以内)
		3000倍					
なす	コナジラミ類 アブラムシ類	2000倍	100~ 300L/10a	収穫前日ま で	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、散布及 び定植後の株 元散布は合計 2回以内)
	ミキイロアザミウマ						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~ 3000倍		収穫前日ま で			4回以内 (育苗期の株 元散布及び定 植時の土壌混 和は合計1回 以内、定植後 の株元散布は 1回以内、散 布は2回以内)
	アザミウマ類	2000倍					
すいか	アブラムシ類	2000~ 3000倍	100~ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	
うり類 (漬物用)	コナジラミ類 ミキイロアザミウマ	2000倍	100~ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土 壌混和は1回 以内、散布は2 回以内)
	アブラムシ類	2000~ 3000倍					

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
ブロッコリー	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布は2回以内)	
はくさい								
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ	50～100倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約3L) 1箱当り0.5L	定植時	1回	灌注		
	ハイマダラノメイガ	50倍						
レタス	アブラムシ類 ナモグリハエ	50～100倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約1.5～4.0L) 1箱当り0.5L	定植時	1回	灌注		
	非結球レタス	アブラムシ類	2000～3000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで 収穫21日前まで	2回以内		散布
ねぎ	ネギアザミウマ	2000倍	100～300L/10a	収穫3日前まで	1回	灌注		4回以内 (育苗トレイへの灌注及び定植時の株元散布は合計1回以内、生育期の株元灌注は1回以内、散布は2回以内)
	ネギアザミウマ ネギハモグリハエ	50倍	セル成型育苗トレイ (30x59cm・使用土壌約1.5～4.0L) 1箱当り0.5L	定植時				
	ネギハモグリハエ	400倍	0.4L/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで		株元灌注		

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ワタアブラムシ	2000倍	100～300L /10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
りんご	アブラムシ類 キンモンホソガ シンクイムシ類 キンモンハモグリガ クワコナカイガラムシ カメムシ類	2000倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ						
ネクタリン	シンクイムシ類 カメムシ類						
おうとう	オウトウショウジョウバエ カメムシ類				2回以内		
なし	アブラムシ類 シンクイムシ類 カメムシ類 ケムシ類 クワコナカイガラムシ	2000倍	200～700L /10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
かき	カメムシ類 フジコナカイガラムシ カキノハタムシガ チャノキイロアサミウマ カキクダアサミウマ						
うめ	アブラムシ類						
ぶどう	フタテンヒメコバイ	3000倍	200～700L /10a	収穫7日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	チャノキイロアサミウマ	1000～					
かんきつ	コナカイガラムシ類	2000倍					

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ゴマダラカミキリ	1000 倍	200～700L /10a	収穫 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類 コアオハナムグリ ケシキスイ類 ミカンバエ アカマルカイガラムシ ヤノネカイガラムシ ミカンキジラミ	2000 倍					
茶	チャノホソガ チャノドリヒメコハバイ チャノキイロアサミウマ ツマグロアオカスミカメ コミカンアブラムシ		200～ 400L/10a	摘採 7 日前 まで			2 回以内
てんさい	テンサイトビハムシ テンサイモグリハナハエ	100～200 倍	5L/ペーパー ポット 6 冊 (2.5L/m ²)	移植前	1 回	散布	1 回
メロン	アブラムシ類	3000 倍	150～ 300L/10a	収穫 3 日前ま で	2 回以内	散布	3 回以内 (育苗期の株元 散布及び定植 時の土壌混和 は合計 1 回以 内、散布は 2 回 以内)
だいこん				収穫 7 日前ま で			3 回以内 (は種時の土壌 混和は 1 回以 内、散布は 2 回 以内)
だいず	カメムシ類	2000 倍					2 回以内
えだまめ							
らっきょう	ネギアザミウマ			収穫前日ま で	3 回以内		3 回以内

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数	
かぶ	アブラムシ類	3000倍	150～300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内（は種時の播溝土壌混和は1回以内、散布は2回以内）	
ししとう	アブラムシ類	3000倍		ミナミキイロアザミウマ			収穫前日まで	3回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類	3000倍						4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）
とうがらし類	アブラムシ類	3000倍		ミナミキイロアザミウマ			収穫前日まで	4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類	3000倍						4回以内（育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）

20%水溶剤（スタークル顆粒水溶剤）（続き）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数			
チンゲンサイ	アブラムシ類	3000倍	100～ 300L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内(は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)			
しゅんぎく				収穫前日まで			2回以内			
ほうれんそう				収穫3日前まで						
さやえんどう		2000倍		収穫前日まで			3回以内(株元散布は1回以内、散布は2回以内)			
こまつな		3000倍		収穫14日前まで			3回以内(は種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)			
みずな				収穫7日前まで			3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)			
食用ぎく										
すもも		2000倍		200～ 700L/10a						2回以内
小粒核果類										

20%水溶剤・(スタークル顆粒水溶剤) (続き)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	アブラムシ類		100～ 300L/10a	収穫前日 まで	2 回以内		2 回以内

50%水溶剤 (スタークルエア-50)

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウンカ類	40 倍	0.8L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	無人 ヘリコ プター による 散布 空中 散布	4 回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計 3 回以内)

(2) 動物用医薬品

動物体には直接使用しない。畜・鶏舎内及びその周辺のハエの成虫の発生又は棲息する場所に、畜・鶏舎内外の床面積 100m² に対し、ジノテフランとして 2g を 100～400ml の水に溶かした溶液を壁、柱に塗布する、又は壁、柱等に噴霧塗布する。なお、塗布量の目安は塗布面 1m² 当たり溶液 100ml とし、溶液が地面に滴り落ちないようできるだけ均一に塗布又は噴霧塗布を行う。

6. 農薬の作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

ジノテフラン

② 分析法の概要

ジノテフランは、アセトニトリルまたは含水メタノールにより抽出し、ヘキサンで分配洗浄、多孔質けい藻土カラムを用いて酢酸エチルまたはジクロロメタン転溶を行う。その上で、グラファイトカーボン固相抽出カラム等を用いて精製した後、高速液体クロマトグラフィーを用いて定量。

検出限界 0.005～0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

今回新たに提出された作物残留試験結果には下線を付している。

① 稲 (玄米)

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 0.5%粉剤を 3 回散布 (3kg/10a)、計 4 回処理したところ、散布後 7～21 日の最大残留量^{注1)}は 0.12, 0.13 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 10%液剤の 1,000 倍希釈液を 3 回茎葉散布 (150L/10a)、計 4 回処理したところ、散布後 7～28 日の最大残留量は 0.29, 0.38 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 10%液剤の 8 倍希釈液を 3 回無人ヘリ散布 (0.8L/10a)、計 4 回処理したところ、散布後 7～35 日の最大残留量は 0.39, 0.40 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、1%粒剤を 1 回散布 (4kg/10a)、さらに 0.5%粉剤を 2 回散布 (3kg/10a)、計 4 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～21 日において 0.13, 0.063 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 1%粒剤を 3 回散布 (4kg/10a)、計 4 回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後 7～21 日において 0.04, 0.01 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、2%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、及び 20%水溶剤の 2,000 倍希釈液を 3 回茎葉散布 (150L/10a)、計 4 回処理したところ、散布後 7～28 日の最大残留量は 0.44, 0.50 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、12%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、40%水和剤の 100 倍希釈液を 500mL/箱 (育苗箱灌注処理)、さらに 10%ゾル剤の 1,000 倍希釈液を 3 回茎葉散布 (150L/10a)、計 5 回処理したところ、散布後 7～28 日の最大残留量は 0.74, 0.54 ppm であった。

稲 (玄米) を用いた作物残留試験 (2 例) において、12%粒剤を 50g/箱 (育苗箱処理)、40%水和剤の 100 倍希釈液を 500mL/箱 (育苗箱灌注処理)、さらに 10%ゾル剤の原液を 3 回無人ヘリ散布 (200mL/10a)、計 5 回処理したところ、散布後 7～28 日の最大残留量は 0.40, 0.94 ppm であった。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%液剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.24, 0.58 ppmであった。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の250倍希釈液を3回パンクル散布（25L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.16, 0.24 ppmであった。

②稲（稲わら）

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び0.5%粉剤を3回散布（3kg/10a）、計4回処理したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.19, 0.29 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び10%液剤の1,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計4回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.54, 0.83 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び10%液剤の8倍希釈液を3回無人ヘリ散布（0.8L/10a）、計4回処理したところ、散布後7～35日の最大残留量は3.00, 0.74 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、1%粒剤を1回散布（4kg/10a）、さらに0.5%粉剤を2回散布（3kg/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.52, 1.10 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び1%粒剤を3回散布（4kg/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～21日において0.44, 0.94 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、及び20%水溶剤の2,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計4回処理した。この試験は適用範囲内で行われていないが、試験を行った範囲内での最も大きな残留量は、散布後7～28日において0.34, 0.81 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の1,000倍希釈液を3回茎葉散布（150L/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は3.6, 0.88 ppmであった。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、12%粒剤を50g/箱（育苗箱処理）、40%水和剤の100倍希釈液を500mL/箱（育苗箱灌注処理）、さらに10%ゾル剤の原液を3回無人ヘリ散布（200mL/10a）、計5回処理したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.22, 5.10 ppmであった。